



BOUSAI 小噺 コバナシ ～ちょっといいお話～



「スタジオアルテ」「NIHO アルテ」避難訓練の様子紹介！！

皆さん、こんにちは！「スタジオアルテ」「NIHO アルテ」で行なっている避難訓練の流れをご紹介します！！
 （自閉症支援でコンサルに入っている先生の指導を元に避難訓練を行なっています。）



訓練前のおしらせ



一対一での支援！避難完了1



避難完了2



●避難訓練のステップ●

- ① スケジュールに合図を入れて個別で実施。
- ② 合図（指示の手渡し）を入れて、個別で実施。
- ③ 全体での避難訓練に参加する。

●具体的な流れ●

- ① 全員に同じ指示（絵、写真、文字などのカード）を渡したら移動。緊急時には、個別化した指示を選別して渡すことは出来ないの、ばらまく指示カードで場所まで移動する。
- ② 境界のはっきりした避場所で待つ。（明瞭化されたブルーシートの上など。待つための指示カードを提示）注目に合わせた個別化を行なう。また、普段から計画的に指示付きの習慣を指導する。
- ③ 次の指示を確認。避難が終わったら、次の活動のスケジュールを見せて戻る。※終了後、何の指示も見せず、いつもの習慣で戻る経験は危険です。その習慣は災害現場に戻る可能性があります。



避難訓練といえば、「地震です！机の下に入ってください」「外に避難します！」と指示され、その指示に従い避難するイメージですが、自閉症の方は一斉の指示で自主的に動くことは難しいですね。

また、避難訓練の際「走らない」「しゃべらない」「あわてない」等、否定的な声掛けをしていませんか？ 否定的ではなく、肯定的に「今すること」を明確に指示します。恐怖心を与えては、本番で避難することは困難です。いつ、何が起こるのかわからない中、・・・様々な場面での避難を考えていかななくてはなりません。

コンサルの先生の言葉をお借りしますが、緊急時だから新しい支援をするのではなく、普段からきちんと支援をしていること。その普段の支援というのが、緊急時に何より必要になります。普段、どれくらい安心して過ごさせているのか、どのくらい見通しを持って過ごさせているのか。自発的なコミュニケーションを発揮できる場面があるのか、やりたいこと、やりたくないことを選んでいるのか。

現在の生活が安定している方は多少不穏にはなっても何とかやり過ごせる方が多く、普段から緊張や不安を抱えている方はその中であつ通常ではないことが起きると今以上に不安になってしまうことが多いです。やはり普段の支援がすべてにつながるのだと考えています。

NPO 法人エシカファーム スタジオアルテ

BOUSAI 4コマ！ ひなんこちゃん No.1

地震です！
防災頭巾をかぶりましょう！



机の下に入ってください！



外に避難します！



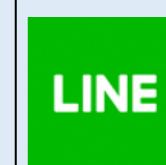
避難場所で待ちましょう！



災害発生！安否確認どうします？

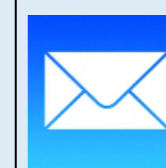
大規模災害発生時には、電話が繋がりに難くなる事が予想されます。災害対策ネットワーク委員会に参加している施設では、そうした状況への対応策として、それぞれの事情に合わせて、以下のような通信手段を使って準備を進めています。

スマホアプリ（LINE,ここまち,マチコミ 等）



- ・グループを作成して、一斉に情報の発信ができる。
- ・スマートフォンが必要。
- ・無料で利用出来る。

電子メール（Gmail,Yahoo!メール 等）



- ・グループを作成して、一斉に情報の発信ができる。
- ・携帯電話で利用可能。
- ・無料で利用出来る。

災害用伝言ダイヤル（171）



- ・全ての電話で利用可能。
- ・無料で利用出来る。
- ・通話料は利用者が負担。（NTTの回線は一部無料）

ISIS（Internet Safety Information System）



- ・災害発生時に、安否確認のメールを、自動で発信。
- ・携帯電話で利用可能。
- ・災害用の有料サービス。

Let's Challenge !

クロスロードゲーム

問題

休所日に震度6強の地震が発生！事業所の建物の倒壊はないものの、室内に物が散乱。

停電・断水・通信機器の使用は不可。翌日、片付け中に利用者さんが通所してきました。あなたは通所を受け入れますか？

- YES（受け入れる）
- NO（受け入れない）

けるん就労移行支援事業所での施設外時の災害時の対応紹介！！

- ・施設外先の避難場所を事前確認をしています。
- ・避難先のマップ、事業所連絡網を車に常備してあります。
- ・職員の連絡は個人携帯、ラインで対応しています。
- ・施設外に向うルートは統一してあります。

こんにちは！災害対策ネットワーク委員会です ～私達の取り組みの根底には、当事者の方々の思いがあります～



インタビューNOW！～過去の災害に学ぶ～

過去の災害を経験した当事者の皆様より、災害時の避難や避難生活についてお話を伺いました。



取材協力 NPO法人自立生活センターアシストMIL

避難生活が長く続いたら・・・

昨年の10月に今までより、大きな台風が静岡県東部に直撃するというニュースをネットで見聞きし、避難所にも考えましたが、常時車椅子を利用している私にとっては、公的避難所はほとんどが小中学校の体育館か教室で、スロープや車椅子トイレが有る所と無い所があり、自宅が古い木造なので、事前に三島北口のホテルに避難しました。

それ以前にそこまで行く手段さえ無い障害者もいる。これが地震だったら。この避難生活が長く続いたら・・・避難生活は大変になるでしょう。

Tさん

他の人に迷惑だから・・・

避難所自体が健常者用と言いますか、まず入り口から階段で中に入ることは出来ない。トイレも無い。私で言えば、床に座る事は出来ません。勿論寝る事も出来ません。

車椅子で移動も難しいと思います。そうすると食べる物も取りに行くことさえ難しいでしょう。全てがマイナスのイメージしか出来なくて申し訳ありません。非常時、皆さん等しく被災者であると思うのですが障害者は避難所でさえ、区別されてしまう。他の人に迷惑だからとか言って排除されてしまう。だったら別の場所を確保して欲しい。実際、私が経験したことではないのですがそういう話しは聞いたことがあります。

Iさん

インタビューを終えて・・・

インタビューを通し、私達の想像以上に当事者の皆さんが不安を抱えていることを感じました。正直、災害があったときに自分がどうなるんだろうか・・・生活はどう変化するのか・・・何が困るのか・・・障害があるなし関係なく、考えたことはあっても実感がない・・・でも、災害はいつ起こるか分からない。そのような事態になった時に、私達施設職員の立場として何が出来るのか改めて考えた時、今回のインタビューのように、当事者の皆さんが平時よりどんなことに不安を感じているのか、また、災害時に実際どんなことに困ったのか、どんなサポートが必要だったのかを知り、困り感を共有することで職員の立場としても出来る災害時支援（平時、災害時に限らず）が少しずつ見えてくるのではないかと改めて感じました。

災対マンガ ～委員会結成前夜 編～

作画協力 おんすいち作業所

<p>①</p> <p>最近、大きな災害が多いよね・・・ 地震や・・・</p> <p>ネットワーク委員</p>	<p>②</p> <p>台風とか・・・</p>
<p>③</p> <p>最近、当事者の皆さんから災害に対する不安をよく耳にするよ。 例えば・・・</p>	<p>④</p> <p>私の特徴を理解してくれる人はいる？ 避難所に受け入れてもらえるのかな？</p> <p>私達の不安</p> <p>物資が欲しい時どう伝えればいいのか？ 避難所生活が続けられるか不安・・・</p>
<p>⑤</p> <p>事業所職員の皆さんからも不安な気持ちを聞いたよ。 物資のこととか・・・ 当事者の皆さん、事業所の皆さんに私達委員会として・・・</p>	<p>⑥</p> <p>みんなが抱えてる不安に対して 何かサポートが出来ないものかな・・・</p> <p>つつく？</p>

ポイント 私達にも出来るサポート作りを目指して委員会が立ち上がりました！

委員会活動の キーワード

- ① 「情報集約」と「発信」の機能づくりを行う
- ② 事業所の早期復旧に向けたバックアップを通し、当事者の皆さんが災害時に出来る限り安心して過ごせる居場所の選択肢を増やす



ポイント 通い慣れた事業所をサポートする

自分の特徴を知っている場所の一つ、通い慣れた事業所・・・。平時より事業所との連携体制を作り、災害時に早期復旧を後押しする。当事者の皆さんが出来る限り早い段階で、事業所で過ごすことが出来るようにしていきたい、これが現段階での取り組みの一つです。



災害対策委員会Q & A

このコーナーでは、三島市災害対策ネットワーク委員会が日頃どんな活動をしているのか、Q & A形式でご紹介します！

Q1,三島市災害対策ネットワーク委員会って何ですか？

A：障がいのある方に対し、大規模な地震災害、水害などの自然災害時に私達施設職員の立場としても出来る支援体制作りを目指して活動しています。

Q2,ネットワークに参加しているのは誰ですか？

A：市内障害福祉サービス事業所、当事者団体などです。

Q3,ネットワークとはどんな働きをするのですか？

A：災害時に「佐野あゆみの里」を情報集約、発信拠点とし、関係機関と連携しながら障がいのある方に対するサポートを行います。

Q4,もう少し、具体的にネットワークの働きを教えてください。

A：現段階では、集約した情報をもとに、各事業所の早期復旧をサポートするための人、物を提供していくことを目指しています。

Q5,何のために事業所の早期復旧をサポートするのですか？

A：日頃通り慣れた事業所は障がいのある方の特徴を知っています。そこで、事業所復旧のサポートを通し、出来る限り早い段階で居間の時間だけでも事業所で過ごせる状況を作っていけたらと考えています（避難所、自宅、友人知人宅など、過ごす場の選択肢に、事業所も想定出来るようにする）。

Q6,事業所も被災し、職員も被災者となりますが、大丈夫ですか？

A：ご心配は当然ですが、被災状況は市内一様ではなく、状況によっては事業所が倒壊せず、職員が活動出来る場合もあります。万全ではなくとも、平時よりネットワークを繋ぎ、より安心、安全を目指すことが大切です。

Q7,災害時の情報共有はどのように行うのですか？

A：安否確認システムを使用し、事業所被災状況を委員会として把握していきます。

Q8,安否確認システムって何ですか？

A：システムに事前登録して頂いている方に、災害時に安否報告を依頼するメールが届きます。URLが添付されているので、報告はインターネット回線を通して行います（簡素化されたアンケートに答える形式です）。結果は委員会として把握していきます。



大規模な災害では、全ての対策に関して万全を期すことは困難ですが、その対策の一つでも多く作ることは出来ます。
私達と一緒に、このネットワークを育てていきませんか？